

青空講座 幾多郎の短歌と植物



生涯に多くの短歌を残した西田幾多郎。家族の病や死、教え子の留学など、折々に詠んだ歌は200首にのぼります。短歌にちなんだ植物の前で、幾多郎が詠んだ歌やその背景を紹介します。



① 8月3日(火)16:00~17:00

妻・寿美の納骨のため幾多郎がふるさとを訪れた日です。幾多郎は祖父の家があった場所を久しぶりに通り、無花果(イチジク)や女郎花(オミナエシ)の歌を詠みました。哲学の杜では女郎花が見ごろです。

無花果は おほぢ(祖父)の君の 庭の木と

おもへど若し 生ひや代れる

② 9月23日(木・秋分の日)16:00~17:00

京都にあった西田邸は広く、幾多郎は庭に多くの木々を植えて楽しんでいました。秋の日には弟子が持ってきた松虫や鈴虫を庭に放して歌を詠んでいます。

夕ざれば 庭の蟲の音 声冴えて

夜風すゞしき 頃ともなりぬ

*5/20に開催予定であった初回が延期となったため、この日に実施します。



場所:哲学の杜(雨天中止)

定員:各20名 要申込、先着順(各1ヵ月前から受付開始)

参加費:無料

協力:幾多郎の歌の風景を楽しむ会

この催しは企画展「枕辺の野花—西田幾多郎の妻・寿美—」(9/26まで開催中)の関連イベントです。
開館時間:9時~17時 展示室観覧料:一般300円、高齢者200円、高校生以下無料

新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いいたします。

今後の感染状況によっては変更・中止となる場合がございます。ご来場の前にホームページをご確認ください。

石川県西田幾多郎記念哲学館

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL 076-283-6600/FAX 076-283-6320

URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail nishida-museum@city.kahoku.lg.jp